

東京都と富山県における男子・女子高校生の 制服着装行動の構造

孫 珠熙, 元林 理佳*

How Wearing School Uniforms Affects the Behavior of Male and Female High School Students in Tokyo Metropolitan and Toyama Prefectures

Ju-hee SOHN and Rika MOTOBAYASHI*

Abstract

This study analyzed how school uniforms influence the behavior and lives of high school students by conducting a questionnaire survey involving 811 male and female high school students in Tokyo Metropolitan and Toyama Prefectures on the amount of their monthly allowance, present satisfaction levels, and school-uniform-wearing behavior.

(1) “The average monthly allowance” is 4,587 yen for males in Toyama, 5,822 yen for males in Tokyo, 4,173 yen for females in Toyama, and 7,369 yen for females in Tokyo. The allowance of males in Tokyo is 47% of what it was 10 years ago, indicating that the students' financial condition is tight.

(2) “Satisfaction levels” for school uniforms are generally low with females in Toyama (10.7%), females in Tokyo (17.7%), males in Toyama (18.6%); and males in Tokyo (17.4%). There is little difference in the satisfaction levels for school uniforms between male students in Toyama and their Tokyo counterparts. The satisfaction level of female students in Toyama is significantly lower than that of female students in Tokyo, indicating that some countermeasure is required.

(3) Factor analysis of the questionnaire items on “high school students' school-uniform-wearing behavior” extracted 5 factors for males: “clothing in disarray,” “desire for expressing individuality,” “attachment to uniforms,” “how they look when they wear a uniform,” and “functionality of uniforms.” For females, one factor, “management of uniforms,” was added to the above, making the number of factors six in total.

キーワード：制服, 高校生, 富山県, 東京都, 行動

keywords : School Uniforms, High School Students, Toyama Prefectures, Tokyo Metropolitan, Behavior.

1. 諸 言

日本の私服校一覧によると、私服を採用している高校は長野県では38校、東京都では35校、大阪府では21校である¹⁾。北陸地方（石川県・富山県・福井県）と隣接県では、長野県の他に新潟県9校、福井県1校が私服だが、石川県と富山県では私服は1校もない。制服を見れば、どの学校の生徒かが一目でわかるため、制服には着用者に緊張感を持たせる役割がある。現在、日本全国の約80%の高校で制服が設けられている。

制服を巡っては、学校側がかわいい制服を自校の宣伝に利用したり、服装の乱れなどを理由に合格圏の受験生を不合格にしたりするといった問題が起きている。一方、制服のデザインを高校選びの参考にする生徒もいる²⁾³⁾。制服にはとても不思議な力があると言える。

多くの学校では制服着用に関する厳しい校則が設けられており、反抗期の生徒たちにとっては、制服は一種の学校側の押しつけであるとも考えられている。

制服は高校生の立場に立ってみると、学校にいる間、さらに登下校中、周りの人と同じ格好で過ごすことになる。気に入らないデザインの制服でも3年間、着続けなければならない、不満を感じている高

* 富山大学人間発達科学部人間環境システム学科環境
社会デザインコース 2015年3月卒業

校生も少なくない。

そのために、高校生の制服に対する考えや、制服着行動を調査することは高校生活を豊かにすることにつながると考える。

一方、制服は社会的な記号として、一致団結、同調性を表している。制服は私服に比べると貧富（高価・低価な服）の差がなく、毎日選ばなくていいので楽であるという面もある。現代の高校生は価値観が多様化しており、限られた制服の着用のルールの中で、自己表現をしていると思われる。現代は個性表現や価値観が多様化しており、また、男女間での服や髪型の区別も曖昧になってきている。

高校生の制服に関する先行研究として、古結・松浦⁴⁾があり、校則からの逸脱傾向の高い行動は自己呈示的な動機によるものもあるが、他方で評価懸念意識が強く影響した行動であるということがわかっている。福村⁵⁾⁶⁾は高校生の制服のイメージは学生らしさ、統一性や若さなどであり、学生らしい、学校の象徴として誇りが持てる面が制服の良いところだと述べている。村田ら⁷⁾は制服に関する意識および服装への興味関心について、制服をよいとする者が6~7割もあり、「楽・悩まなくてよい」、「なんとなく」という理由であったと述べている。さらに、服装に関する興味や関心があるのは女子の方が高く、男女ともに学年が上がるほど高くなる傾向であると報告している。

これまで筆者は大学生を対象に、高校時代の制服着用時の様子について、個性を表現するために行った行動や制服の着用感情について、自由記述をもらったテキスト(言語)をポジティブ・ネガティブ的な感性用語に分析し可視化した⁸⁾。この結果を基に、本研究では高校生を対象とした制服着行動の測定尺度項目を作成した。

孫・蒲池・渡辺がこれまで行った高校生を対象とした研究は、日韓の男子高校生のライフスタイルの特徴⁹⁾¹⁰⁾、渡辺・蒲池^{11)~13)}が行った東京都の高校生の衣生活行動とライフスタイルの関連があるが、いずれも調査時期は10年前である。孫・小野の研究では私服を着ている大学生のファッション意識・行動に名古屋・京阪神・九州の地域差はあまりなかった¹⁴⁾。

多感な男女高校生は、時代とともに変わる美意識に合わせた自己表現で着こなしをしていると考えられる。しかし、高校生世代流の着こなしは学校の制

服規制に違反した着崩しになることもある。制服デザインの要素(肩幅や肩パットの有無、フィット感、上下の着丈のバランス、身幅のゆとり、袖の幅、衿の形、リボン、ネクタイ、上下の配色、ボタン)は制服姿が保守的か現代的か、高校の魅力度、制服への愛着を大きく左右する。

本研究は、高校生活の実態・満足度及び、制服着行動について、性別・地域間の特徴を明らかにすることを目的とする。東京都と富山県の男女高校生を対象に、独自に作成した制服着行動に関する33項目の測定尺度を用いて、現代の男女高校生の制服着行動の構造を検討する。高校生の制服は、外見への自信感となり、こころの内面から勉学のやる気を出させ、生徒の良好な学校生活の維持を促進するよう機能している可能性も考え、その着行動を研究する意義はあると思われる。本研究が高校生の制服着用実態を理解するうえでの一つの資料となり、今後の理想の制服モデル・アイテム(服種)の選定に役立つことを期待する。

2. 研究方法

2-1 調査内容

(1) 基本属性：地域、学校、性別、学年、お小遣いの額、満足度、自己申告による成績などを含む7項目である。

(2) 測定尺度項目：「高校生の制服着行動」に関する測定尺度は33項目(4件法)を設定した。

「制服着行動」の測定尺度項目は、2013年7月から2014年4月まで、大学生352名を対象に行った、テキストマイニングによる高校制服着用時の感情の視覚化のテキストデータ解析結果⁸⁾とこれまで行ったファッション行動関連研究^{14)~16)}を参考に、孫・元林が独自に作成した。

(3) 調査時期と東京都・富山市の調査対象者

調査時期は2014年9月である。調査対象者は富山県の公立高校生男女314名、東京都の私立高校生男女497名の計811名である。

調査対象者の基本属性は表1に示す。質問内容に体重や身長を自己申告を求めたことに関して、富山県のある高校では個人別の調査票をひとり一人の封筒に入れて封をして回収された。封をしたかどうかによる回答への影響は特にみられなかった。

また、調査にあたり、事前に高校の責任者に研究の目的、方法を説明し、調査票を事前に提出し、承諾を得て実施した。富山県では8高校に依頼をしたが、2校のみ承諾が得られた。東京都の高校では1高校に依頼し、承諾が得られた。

(4) 本調査の分析方法

基本属性の性別、地域、学校ごとの差異を明らかにするため、単純集計やクロス集計によるカイ2乗検定、平均値の差の検定(t検定)を行った。また、「高校生の制服着装行動(33項目)」について4段階評定尺度(4.あてはまる, 3.ややあてはまる, 2.ややあてはまらない, 1.あてはまらない)に対してそれぞれ4~1点を与えた。次に、「高校生の制服着装行動(33項目)」の構造を明らかにするために因子分析を行った。統計解析にはIBM SPSS Statistics 19.0を用いた。

3. 結果および考察

3-1 調査対象者の経済状況

調査対象者のお小遣いの額を表1に示す。高校生のひと月のお小遣いの額を調査した結果、最低額は200円であり、最高額は70,000円であった。男子は、ひと月の平均額が富山は4,587円、東京は5,822円であった。女子の平均額は、富山が4,173円、東

京が7,369円であった。カイ2乗検定を行った結果、男女ともに富山と東京間で、1%水準で有意差が見られた。

男女ともに、東京の高校生の方が富山の高校生よりもひと月あたりの小遣いが多いことがわかった。富山では公立高校、東京都では私立高校で調査したこと、東京では富山に比べ物価が高いことが原因であると考えられる。しかし、孫ら⁹⁾によると、2004年の東京の男子高校生のひと月のお小遣いは、1年生8,625円、2年生14,500円、3年生16,222円であった。平均額でみると現在のお小遣いは10年前の約47%の額になっている。また、10年前の高校3年生は高校1年生の2倍だったが、現在は東京の女子高の3年生が高校1年生の1.4倍、東京の男子高は1年生とほぼ等しい傾向がみられた。10年の間で日本の経済状況は変わり、現在の高校生は限られたお小遣いの中でやりくりしていると考えられる。

3-2 高校生の現在の満足度について

高校生が現在満足しているものに、「はい」か「いいえ」で複数回答してもらった結果を図1に示した。高校生が最も満足感を感じているのは、富山、東京の男女高校生ともに、「友人関係」であり、富山の女子高校生が(49.7%)、東京の女子高校生が(56.2%)、富山の男子高校生が(55.1%)、東京の

表1 調査対象者の基本属性

		1年生 n	%	2年生 n	%	3年生 n	%	計 n	%
性別	富山	89	22.7	67	17.1	0		156	39.8
	東京	74	18.9	85	21.7	77	19.6	236	60.2
	計(男子)	163	41.6	152	38.8	77	19.6	392	100
	富山	124	29.6	34	8.1	1	0.2	159	37.9
	東京	82	19.6	70	16.7	108	25.8	260	62.1
	計(女子)	206	49.2	104	24.8	109	26	419	100
地域別	男子	89	28.3	67	21.3	0	0	156	49.5
	女子	124	39.4	34	10.8	1	0.3	159	50.5
	計(富山)	213	67.6	101	32.1	1	0.3	315	100
	男子	74	14.9	85	17.1	77	15.5	236	47.6
	女子	82	16.5	70	14.1	108	21.8	260	52.4
	計(東京)	156	31.5	155	31.3	185	37.3	496	100
合計(全体)		369	45.5	256	31.6	186	22.9	811	100
		Yen円		Yen円		Yen円		Yen円	
お小遣い 月 Mean	富山	4688		4486				4587	
	東京	5690		5866		5909		5822	
	平均(男子)	5022		5176		5909		5369	
	富山	3686		4661				4173	
	東京	5754		8509		7843		7369	
	平均(女子)	4375		6585		7843		6268	

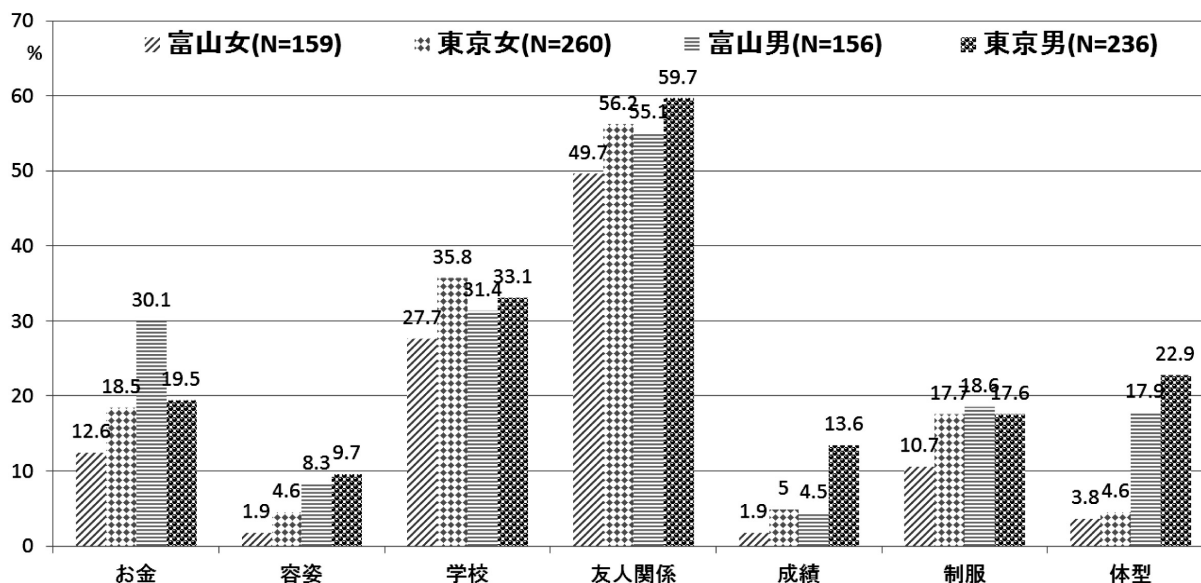


図1 高校生が現在満足していると感じているもの

男子高校生が(59.7%)で、男女共に東京のほうが高かった。一方、最も満足度が低かったのは、富山の女子高校生では「容姿」と「成績」(1.9%)、東京の女子高校生は「容姿」と「体型」(4.6%)、富山の男子高校生は「成績」(4.5%)、東京の男子高校生は「容姿」(9.7%)であった。

女子高校生は容姿を気にする傾向があり、男子高校生は富山のほうが成績の満足度が低いということがわかった。

「制服」に満足している高校生は、富山の女子高校生が(10.7%)、東京の女子高校生が(17.7%)、富山の男子高校生が(18.6%)、東京の男子高校生が(17.4%)と低いことがわかった。また、「容姿」の満足度が富山(1.9%)、東京(4.6%)であり、「体型」の満足度が富山(3.8%)、東京(4.6%)であったことから、外見に関する項目の女子高校生の満足度が低いことがわかった。

地域、性別問わず「友人関係」の満足度が高いことが、「学校($p<.001$)」の満足度にも関連していると考えられる。女子高校生の「容姿」、「体型」の満足度が低いのは、自分に自信が持てないことと、外見への理想が高いことが理由と考えられる。

3-3 男女高校生の制服着行動の特徴

富山・東京の男女高校生の制服着行動の項目の評定平均値と男女平均値の差の検定の結果を表2に示す。男女の制服着行動の平均値の差の検定を行った結果、33項目のうち21項目に男女高校生間の有意差が見られた。最も平均値が高かった項目は、

男子は「21.冬服は動きにくいと感じたことがある」であり、女子は「1.制服のしわや、すそのほつれなどの型崩れが気になる」であった。一方、最も平均値が低かった項目は、男子は「19.自分で制服にアイロンをかける方だ」であり、女子は「7.入学後、サイズが合わなくなり制服を新しく買ったことがある」であった。前報のテキストマイニングの結果⁸⁾でも、「腕」「動きにくい」に出現頻度が高く、カテゴリー間のクロス集計にも回答されていることから、冬に制服の下にたくさん着こむためと考えられた。なお、冬服は動きにくいという回答は、男子が最も平均値が高かった。また、女子はスカートに関する出現回答が多く、スカートのプリーツが乱れないよう気を使うため、型崩れが気になると感じる人が多いと考えられる。

男子の方が女子よりも平均値が高く、有意差の大きい項目は、「6.3年間で体型が変わることを想定して、大きいサイズの制服を購入している」、「7.入学後、サイズが合わなくなり制服を新しく買ったことがある」、「23.今の制服に満足している」の3項目であり、0.1%水準で有意な差が見られた。男子高校生は、高校入学から卒業までの3年間の体格の変化が女子高校生に比べると著しいため、3年間着られるよう大きいサイズの制服を購入したり、卒業までの間にサイズの大きい新しい制服を購入したりすると考えられる。さらに女子に比べると、今着用している制服に満足していることがわかった。

一方、女子の方が男子よりも平均値が高く、有意差の大きい項目は、13項目であった。「1.制服のし

表2 高校生の制服着装行動(33項目)の評定平均値(男子, 女子)

	男子		女子		t 値	p	short words
	平均値	SD	平均値	SD			
1. 制服のしわや, すそのほつれなどの型崩れが気になるほうだ。	2.39	1.00	2.72	0.94	-4.95 ***		1. 型崩れが気になる
2. 制服が型崩れしないように気をつけて着ているほうだ。	2.27	0.98	2.55	0.94	-4.16 ***		2. 型崩れ気を付ける
3. 制服を着ている自分がかっこいい, かわいいと思う。	1.76	0.83	1.63	0.76	2.26 *		3. 制服の自分良い
4. 制服を着ている異性がかっこいい, かわいいと思う。	2.53	1.01	2.44	0.92	1.40 *		4. 制服の異性良い
5. 私服より制服の方が好きだ。	2.11	0.96	2.28	0.98	-2.51 ***		5. 私服より制服
6. 3年間で体型が変わることを想定して, 大きいサイズの制服を購入している。	2.72	0.96	1.94	0.96	11.58 ***		6. 体型の変化を想定
7. 入学後, サイズが合わなくなり制服を新しく買ったことがある。	1.72	1.06	1.39	0.84	4.98		7. 新しく買った
8. 身体にフィットする制服を着るように心がけているほうである。	2.51	0.97	2.52	0.94	-0.13		8. 身体にフィット
9. 人と同じような見た目にしたくないほうである。	2.21	0.97	2.28	0.98	-0.94		9. 人と同じは嫌
10. 制服を着るときのカバンや靴は, 派手にしているほうである。	1.67	0.83	1.72	0.85	-0.85		10. カバンや靴は派手
11. 衣替えの期間は, 周りに合わせて制服を選ぶほうである。	2.40	1.08	2.53	1.01	-1.64		11. 衣替えは合わせる
12. 夏はシャツやブラウスから透けることを想定して, 目立たない色の下着を選ぶほうである。	1.77	1.01	2.68	1.01	-12.82 ***		12. 夏は目立たない下着
13. 冬は見た目を重視し, コートでの着ぶくれを避け, 防寒具はマフラーだけにする。	1.72	0.90	1.80	0.89	-1.33		13. 冬はマフラーだけ
14. 雪ブーツは機能性よりデザインを重視するほうである。	1.87	0.97	2.36	1.01	-6.91 ***		14. ブーツデザイン重視
15. 夜間は危ないので, なるべく目立つ白やベージュなどのコートやマフラーを着用するほうだ。	1.56	0.79	1.65	0.87	-1.27		15. 夜は目立つコートマフラー
16. 少し暑かったり寒かったりしても, 見た目を重視して我慢することがある。	2.03	0.94	2.34	0.92	-4.61 ***		16. 見た目重視
17. 制服を着るとスイッチが入る。	1.87	0.96	2.06	0.95	-2.68 **		17. スイッチ
18. 制服を着ると緊張感もてる。	1.92	0.97	2.05	0.89	-2.11 *		18. 緊張感
19. 自分で制服にアイロンをかけるほうだ。	1.45	0.81	1.75	0.98	-4.82 ***		19. 自分でアイロン
20. 制服の洗濯の仕方を知っている。	2.02	1.09	2.09	1.08	-0.96		20. 洗濯法がわかる
21. 冬服は動きにくいと感じることがある。	2.73	1.05	2.58	1.04	2.05 *		21. 冬服は動きにくい
22. 制服は着脱しづらいと感じることがある。	2.57	1.00	2.61	1.01	-0.58		22. 着脱しづらい
23. 今の制服には満足している。	2.69	1.02	2.40	1.02	4.12 ***		23. 制服に満足
24. 白, 黒, 紺以外の色の制服に興味がある。	2.01	1.05	2.63	1.10	-8.15 ***		24. 白黒紺以外に興味
25. シャツやブラウスはパステルカラーが良いと思う。	1.89	0.91	2.33	1.08	-6.15 ***		25. シャツブラウスはパステル
26. 服装が自由な学校はうらやましいと思う。	2.18	1.12	2.45	1.17	-3.43 ***		26. 自由うらやましい
27. シャツやブラウスの下に, 白以外の色や柄物のTシャツや下着を着ることがある。	2.16	1.16	2.56	1.20	-4.85 ***		27. 色柄物の下着
28. ネクタイ, リボンを緩めてつけるほうである。	1.74	1.00	2.02	1.08	-3.80 ***		28. ネクタイリボンを緩める
29. 腰パンをしたり, スカートを短くしたりしている。	1.71	0.91	2.41	1.04	-10.17 ***		29. 腰パン, スカートを短く
30. かかとを踏んで靴を履いている。	1.63	1.00	1.51	0.91	1.88		30. かかとを踏む
31. シャツやブラウスのボタンを規定より多く外して着ている。	1.67	0.92	1.66	0.93	0.23		31. ボタンを多く外す
32. 休みの日も制服を着て外出する。	1.40	0.77	1.72	0.91	-5.39 ***		32. 休みの日も制服
33. 放課後, 制服のまま寄り道をするに抵抗がある。	1.57	0.87	1.49	0.79	1.45		33. 制服のまま寄り道に抵抗

***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05

N=392

N=419

わや, すそのほつれなどの型崩れが気になる型崩れが気になる」「2. 制服が型崩れしないように気を付けて着ている方だ」「12. 夏はシャツやブラウスから透けることを想定して, 目立たない色の下着を選

ぶほうである」「14. 雪ブーツは機能性よりデザインを重視するほうである」「16. 少し暑かったり寒かったりしても, 見た目を重視して我慢することがある」「19. 自分で制服にアイロンをかけるほうだ」



①C(男・冬) ②C(女・冬) ③M(男・冬) ④M(女・冬)

図 2-1 調査対象校の制服(富山 Toyama)



①S(男・夏) ②S(女・夏) ③S(男・冬) ④S(女・冬)

図 2-2 調査対象校の制服(東京 Tokyo)

「24. 白黒紺以外の色の制服に興味がある」「25. シャツブラウスはパステルが良いと思う」「26. 服装が自由な学校はうらやましいと思う」「27. シャツやブラウスの下に、白以外の色や柄物のTシャツや下着を着ることがある」「28. ネクタイ、リボンを緩めてつけるほうである」「29. 腰パンをしたり、スカート丈を短くしたりする」「32. 休みの日も制服を着て外出する」であり、0.1%水準で有意な差が見られた。

すなわち、女子は男子に比べ、制服着用時の見た目を気にしていると読み取れる。さらに、現在の制服に満足できておらず、紺、黒、灰以外の色の制服

に興味をもっており、個性表現への願望があると考えられる。また、女子のほうが男子よりも制服を着崩して着用していることがわかった。

調査対象校の高校制服写真を図 2-1 (富山県)、図 2-2 (東京都) に示す。

3-4 男子高校生の制服着行動の構造 (因子分析)

男子高校生(392名)の制服着行動の構造を明らかにするため、まず33項目の平均値、標準偏差を算出した。固有値の推移と因子の解釈の可能性を考慮しながら、いずれの因子に対しても十分な因子

表 3 高校生の制服着行動の因子分析(男子 N=392)

高校生の制服着行動について (18項目) short words	因子				
	I	II	III	IV	V
31. ボタンを多く外す	.764	.137	-.021	-.129	.029
29. 腰パン、スカート丈を短く	.762	.183	.051	.034	-.094
27. 色柄物の下着	.644	.198	.100	-.226	-.049
16. 見た目重視	.583	.116	.239	.273	-.010
9. 人と同じは嫌	.528	.075	.047	.322	.129
10. カバンや靴は派手	.473	.242	.291	.217	.049
25. シャツブラウスはパステル	.112	.803	.189	.144	.084
24. 白黒紺以外に興味	.252	.744	.133	.089	-.032
26. 自由うらやましい	.254	.671	-.127	.027	.190
17. スイッチ	-.051	-.087	.769	.145	.086
3. 制服の自分良い	.268	.071	.639	.184	-.275
2. 型崩れ気を付ける	.141	.109	.598	.136	.153
4. 制服の異性良い	.110	.398	.525	-.032	.004
12. 夏は目立たない下着	-.133	.106	.048	.791	-.091
15. 夜は目立つコートマフラー	.094	.090	.295	.655	-.015
13. 冬はマフラーだけ	.486	.021	.176	.581	.182
21. 冬服は動きにくい	.016	.082	-.024	.039	.849
22. 着脱しづらい	-.003	.085	.104	-.048	.799
累積寄与率(%)	16.288	27.587	38.655	48.625	57.413

負荷量を示さなかった項目と2つ以上の因子に負荷量が高く見られた項目を削除し、計18項目で再度因子分析(主成分分析, バリマックス回転)を行った。その結果, 固有値1.0以上で5因子構造が妥当であると考えられた(表3)。

第1因子は「31. シャツやブラウスのボタンを規定より多く外して着ている」「29. 腰パン, スカートの丈を短く」「27. 色柄物の下着」「16. 少し暑かったり寒かったりしても, 見た目を重視して我慢することがある」「9. 人と同じは嫌」「10. 制服を着る時のカバンや靴は, 派手にしているほうである」の6項目で構成されており、『制服の着崩し』を表す因子と解釈した。

第2因子は「25. シャツブラウスはパステルが良いと思う」「24. 白黒紺以外の色の制服に興味がある」「26. 服装が自由な学校はうらやましいと思う」の3項目で構成されており、『個性表現の願望』を表す因子と解釈した。

第3因子は「17. 制服を着るとスイッチが入る」「3. 制服を着ている自分はカッコいい, かわいいと思う」「2. 型崩れ気を付ける」「4. 制服を着ている異性はカッコいい, かわいいと思う」の4項目で構成されており、『制服への愛着』を表す因子と解釈した。

第4因子は「12. 夏は目立たない下着」「15. 夜は目立つコートマフラー」「13. 冬は見た目を重視し, コートでの着ぶくれを避け, 防寒具はマフラーだけにする」の3項目で構成されており、『制服着用時の外見』を表す因子と解釈した。

第5因子は「21. 冬服は動きにくいと感じたことがある」「22. 冬服は動きにくいと感じたことがある」の2項目で構成されており、『制服の機能性』を表す因子と解釈した。第5因子までの累積寄与率は57.41%であった。

3-5 女子高校生の制服着装行動の構造 (因子分析)

制服着装行動は男子学生より, 女子学生の方がより細分化していると思われる。そこで女子高校生(419名)の制服着装行動の構造を明らかにするため, まず33項目の平均値, 標準偏差を算出した。固有値の推移と因子の解釈の可能性を考慮しながら, いずれの因子に対しても十分な因子負荷量を示さなかった項目と2つ以上の因子に負荷量が高く見られた

項目を削除し, 計22項目で再度因子分析(最尤法, プロマックス回転)を行った。その結果, 固有値1.0以上で6因子構造が妥当であると考えられた(表4)。

第1因子は「29. 腰パンをしたり, スカートの丈を短くしたりする」「31. シャツやブラウスのボタンを規定より多く外して着ている」「28. 服装が自由な学校はうらやましいと思う」「30. かかとを踏んで靴を履いている」の4項目で構成されており、『制服の着崩し』を表す因子と解釈した。

第2因子は「25. シャツやブラウスはパステルカラーが良いと思う」「26. 服装が自由な学校はうらやましいと思う」「24. 白, 黒, 紺以外の色制服に興味がある」「23. 今の制服には満足している」の4項目で構成されており、『個性表現の願望』を表す因子と解釈した。

第3因子は「1. 制服野しわやすそのほつれなどの型崩れが気になるほうだ」「2. 制服が型崩れしないように気を付けて着るほうだ」「20. 制服の洗濯の仕方を知っている」の3項目で構成されており、『制服の管理』を表す因子と解釈した。

第4因子は「3. 制服を着ている自分はカッコいい, かわいいと思う」「17. 制服を着ているとスイッチが入る」「4. 制服を着ている異性はカッコいい, かわいいと思う」「5. 私服より制服のほうが好きだ」の4項目で構成されており、『制服への愛着』を表す因子と解釈した。

第5因子は「22. 制服は着脱しづらいと感じることがある」「21. 冬服は動きにくいと感じることがある」の2項目で構成されており、『制服の機能性』を表す因子と解釈した。

第6因子は「10. 制服を着る時のカバンや靴は派手にしているほうである」「16. 少し暑かったり寒かったりしても見た目を重視して我慢することがある」「9. 人と同じような見た目にしたくないほうである」「19. 自分で制服にアイロンをかけるほうだ」「13. 冬は見た目を重視し, コートでの着ぶくれを避け, 防寒具はマフラーだけにする」の5項目で構成されており、『制服着用時の外見』を表す因子と解釈した。なお, 第6因子までの累積寄与率は42.91%であった。

男子高校生の制服着装行動の因子分析結果との違いは, 男子は5因子, 女子は6因子が得られ, 女子には『Ⅲ. 制服の管理』が新たに現れ, 女子高校生は男子高校生より制服着装行動に関して敏感であ

表4 高校生の制服着行動の因子分析(女子 N=419)

高校生の制服着行動について (22項目) short words	因子					
	I	II	III	IV	V	VI
29. 腰パン, スカート丈を短く	.752	.407	.051	.165	-.133	.191
31. ボタンを多く外す	.691	.407	-.041	.037	-.053	.404
28. ネクタイリボン「を緩める	.647	.300	-.031	.148	-.047	.109
30. かかとを踏む	.438	.193	-.161	.120	-.037	.126
25. シャツブラウスはパステル	.329	.729	-.042	-.011	.001	.288
26. 自由うらやましい	.282	.608	-.009	-.140	.165	.400
24. 白黒紺以外に興味	.316	.573	.060	.163	.077	.230
23. 制服に満足	-.011	-.390	.050	.377	.002	-.340
1. 型崩れが気になる	-.027	.067	.890	.258	-.061	.257
2. 型崩れ気を付ける	-.025	.075	.800	.308	.059	.334
20. 洗濯法がわかる	.006	.006	.383	.213	.188	.363
3. 制服の自分良い	.224	.159	.250	.666	-.061	.302
17. スイッチ	.027	.054	.285	.555	.066	.242
4. 制服の異性良い	.251	.216	.249	.530	-.187	.183
5. 私服より制服	.122	-.234	.093	.460	-.209	-.264
22. 着脱しづらい	.029	.174	.004	-.145	.753	.250
21. 冬服は動きにくい	-.160	.058	-.025	-.100	.738	.196
10. カバンや靴は派手	.364	.466	.195	.209	.013	.522
16. 見た目重視	.338	.400	.110	.114	.010	.510
9. 人と同じは嫌	.272	.426	.098	.179	.082	.439
19. 自分でアイロン	-.048	.020	.357	.188	.164	.422
13. 冬はマフラーだけ	.240	.298	.213	.174	.074	.421
累積寄与率(%)	14.03	25.64	32.96	37.63	40.78	42.91
I 制服の着崩し	1.000	.471	-.038	.229	-.142	.242
II 個性表現の願望		1.000	.021	-.012	.044	.510
III 制服の管理			1.000	.353	-.004	.260
IV 制服への愛着				1.000	-.115	.085
V 制服の機能性					1.000	.222
VI 制服着用時の外見						1.000

り, 制服の着崩しや制服の手入れなどの管理に気を付けるなど, 「制服着行動」の構造が細分化された結果であると考えられる。

また, より総合的にみるために調査対象者(東京都の女子高校生と富山県の女子高校生)の「制服着行動(22項目)」の各因子の因子得点を基に地域

間の平均値の差を検討した結果を図3に示した。有意な差があった因子は第1因子の『制服の着崩し(p<0.001)』, 第5因子の『制服の機能性(p<0.001)』と第4因子『制服への愛着(p<0.01)』であった。

『I. 制服の着崩し』と『IV. 制服への愛着』は東京都の女子高校生が富山県の女子高校生より因子得点が高いことから, 東京都の女子高校生は制服の着崩しや制服への愛着を重視していると考えられる。『V. 制服の機能性』は富山県の女子高校生が東京都の女子高校生より因子得

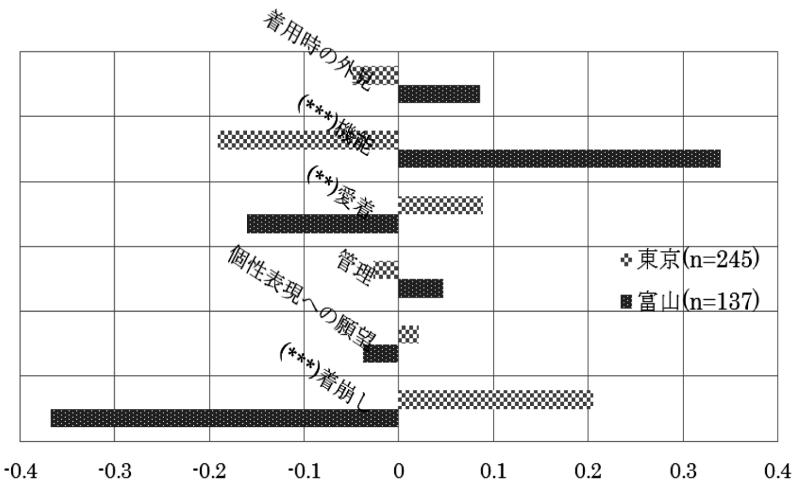


図3 制服着行動の因子得点の地域間比較(女子)

** : p<0.01 *** : p<0.001

点が高いことから、富山県の女子高校生は制服の機能性を重視していると考えられる。

富山県の男女高校生は制服の機能性を重視し、東京都の男女高校生は制服への愛着を持っていた。

4. まとめ

本研究は、東京都と富山県の男女高校生を対象に、経済状況、現在の満足度、「制服着装行動」について、質問紙調査を行い、制服が高校生の行動・生活に与える影響を明らかにした。

1) ひと月のお小遣いの額について、男子の平均額が富山(4,587円)、東京(5,822円)であった。女子の平均額は、富山(4,173円)、東京(7,369円)であった。男子高校生のお小遣いの額は10年前の47%(東京基準：女子7369円、男子5822円)水準で厳しい状況にある。また、10年前の高校3年生は高校1年生の2倍だったが、現在は東京の女子高校3年生が高校1年生の1.4倍、東京の男子高校は1年生とほぼ等しい傾向がみられた。10年の間で日本の経済状況は変わり、現在の高校生は限られたお小遣いの中でやりくりしていると考えられる。

2) 満足度について、「制服」に満足している高校生は、富山の女子(10.7%)、東京の女子(17.7%)、富山の男子(18.6%)、東京の男子(17.4%)と低いことがわかった。男子高校生の制服満足度は東京都と富山県の間で差が見られないが、女子高校生は富山の女子高校生が東京の女子高校生に比べて満足度が低いので、対策が求められる。

また、女子の「容姿」の満足度が富山県(1.9%)、東京都(4.6%)であり、「体型」の満足度が富山県(3.8%)、東京都(4.6%)であったことから、外見に関する項目の女子高校生の理想が高いと考えられる。

「友人関係」の満足度が富山の女子(49.7%)、東京の女子(56.2%)、富山の男子(55.1%)、東京の男子(59.7%)で、男女共に東京のほうが高かった。地域、性別問わず友人関係の満足度が「学校の満足度」にも関連($p < 0.001$)していると考えられる。

3) 「高校生の制服着装行動」について、男子高校生は入学時に大きいサイズの制服を購入したり、卒業までの間にサイズの大きい新しい制服を購入

したりすることがわかった。これは、男子は高校入学から卒業までの3年間の体格の変化が女子に比べると著しいためと考えられる。

東京の男子高校生は、自分好みに制服を着崩すことで満足感を得ていると考えられる。女子高校生は男子高校生に比べ、制服着用時の見た目を気にしていることが明らかになった。さらに、女子高校生のほうが男子高校生よりも制服を着崩して着用していることがわかった。現在の制服に満足できておらず、黒、紺、灰色以外の色の制服に興味をもっており、個性表現への願望があると考えられる。

4) 地域間で比較すると、富山県の女子高校生は、冬服は動きにくいと感じていた。これは、富山県は東京都に比べると冬は寒いため、防寒のため制服の下にたくさん着込むことが原因と考察した。さらに男子高校生と同様、東京の女子高校生は富山の女子高校生に比べると、制服を着崩す割合が高かった。

5) 高校生の「制服着装行動」の構造を総合的に見ると、男子高校生は、『制服の着崩し』『個性表現の願望』『制服への愛着』『制服着用時の外見』『制服の機能性』の5因子、女子高校生は『制服の着崩し』『個性表現の願望』『制服の管理』『制服への愛着』『制服の機能性』『制服着用時の外見』の6因子で構成されていた。女子高校生は男子高校生にはない『制服の管理』の因子が現れ、型崩れや洗濯を気にするなど細分化されているとわかった。

また、男女高校生共に「制服着装行動」の第1因子は『制服の着崩し』、第2因子は『個性表現の願望』であり、校則の範囲で何らかの自己表現を強く意識していることがわかった。

最近の被服関連図書においても、Maslow¹⁷⁾の低次元欲求の段階である生理・機能性を含め、さらにMaslowの高次元欲求段階である自己表現として、「ものと心としての衣服」¹⁸⁾、「装いの心理」¹⁹⁾が注目されている。

6) 女子高校生はリボン、男子高校生はネクタイではなく、東京都の高校生は女子高校生もネクタイを採用していた。韓国の首都ソウルの女子高校生も制服の襟元にリボンを付けずに、赤いネクタイを付けていた。性差別をなくそうとしていると考えられる。

7) 男子高校生は冬制服の袖が動きにくい、制服購入に体型の変化を想定する生徒が多い。女子高校生は型崩れが気になる生徒が多いことから、袖ぐり(Arm Hole)のパターンデザイン、伸縮性のある素材、スカートのプリーツなどのデザインに改善が求められた。

8) 自分の見た目に非常に気を使っている高校生は制服着用時にも個性表現への願望が強く、周りとの差をつけるため制服を着崩していると考察した。また、制服への愛着もあり、管理もしっかりと行っており、清潔な制服を着用していることがわかった。

衣服の外見が内面の気持ちを高揚させることを考えると、制服が学校生活、学業などを含め男女高校生に与える影響は極めて大きいと考えられる。

以上、本研究では、多様化、個性化している現代の男女高校生811名を対象に経済状況、現在の満足度、「高校生の制服着行動(33項目)」を測定尺度に、性別・地域間の特徴を明らかにした。

本研究の成果が美しい高校制服の着こなしをサポートすることに役立つことを期待する。衣服に対する美意識は時代とともに変わるものであり、高校生の制服への気配りも視野に入れ、制服のモデルチェンジや校則の指導が求められる。

【謝辞】

本研究に関する調査票の配布、回収、郵送に快くご協力(2014年当時)をいただいた、東京都(中央大学杉並高等学校)児玉美絵子先生、富山県(富山県立富山中部高等学校)桐井克二先生、(富山県立富山南高等学校)大崎武治先生に心よりお礼を申し上げます。また、被験者の高校生の皆様に、厚く感謝を申し上げます。

参考文献

- 1) 日本の私服校一覧
- 2) 朝日新聞：神奈川県立神田高校「外見で合否決定に賛否」、朝刊28面(2008)
- 3) 内藤章江：中学生・高校生・大学生の着装規範意識と着装に関する教育経験、繊維製品消費学会誌, 55, 920-932(2014)
- 4) 古結亜希, 松浦均：高校生の自己意識が制服着行動に与える影響について、三重大学教育学部紀要, 63, 287-295(2012)

- 5) 福村愛美：高校生の制服に対する意識と学校教育との関連性について、大分県立芸術文化短期大学研究紀要, 32, 123-130(1994)
- 6) 福村愛美：高校生の制服に対する意識と学校教育との関連性について(第2報)、大分県立芸術文化短期大学研究紀要, 34, 241-249(1996)
- 7) 村田温子, 渡辺澄子：中学生・高校生の衣生活について—制服に対する意識および服装への興味関心—, 三重短期大学紀要, 52, 1-14(2004)
- 8) 孫珠熙, 元林理佳：テキストマイニングによる高校制服着用時の感情の視覚化, 日本家政学会第66回大会(場所：福岡県北九州市)研究発表要旨集, 59(2014)
- 9) 孫珠熙, 蒲池香津代, 渡辺澄子：共分散構造分析による日・韓男子高校生のライフスタイルの比較, 日本家政学会誌, 61(4), 231-238(2010)
- 10) 孫珠熙：韓国ソウル市内高校生のライフスタイルの特徴, 日本家政学会誌, 59(2), 99-109(2008)
- 11) 渡辺澄子, 杉田洋子, 蒲池香津代：東京都内高校生のライフスタイルと被服行動(第2報)—ライフスタイルと被服行動の関連—, 服飾文化学会誌, 6(1), 69-77(2005)
- 12) Kamachi, K., Sugita, H., Sohn, J., and Watanabe, S., : Life-style & Dressing Behavior of High School Students in Japan and Korea (the First Report)-Comparison of High School Students' Lifestyles in Japan and Korea-2005 Seoul International Clothing& Textiles Conference, 744-747(2005)
- 13) Sohn, J., Kamachi, K., Sugita, H., and Watanabe, S., : Life-style & Dressing Behavior of High School Students in Japan and Korea (the Second Report)-Comparison of High School Students' Dressing Behavior in Japan and Korea-, 2005 Seoul International Clothing & Textiles Conference, 717-720(2005)
- 14) 孫珠熙, 小野幸一：女子学生のファッション意識と女性雑誌との関連, ファッションビジネス学会論文誌, 15, 67-78(2010)
- 15) 孫珠熙：構造方程式モデリング手法を用いた女子学生のファッション行動と購読女性雑誌の検討—2008年～2010年の傾向を中心に—日本家政学会誌, 64(3), 147-156(2013)

- 16) 孫珠熙, 近藤信子: 女子学生の被服行動に影響を及ぼす独自性欲求とファストファッションのイメージ構造, 富山大学人間発達科学部紀要7巻2号, 107-118 (2013)
- 17) マズローの心理学: フランク・ゴープル著, 産業能率大学出版部刊(1972)
- 18) 牛腸ヒロミ: ものとして, 心としての衣服, 放送大学教材(2011)
- 19) 小林茂雄: 装いの心理, アイ・ケイコーポレーション(2003)
- 20) 孫珠熙, 元林理佳: テキストマイニングを用いた高校制服着用時の自己表現欲求の視覚化, 日本家政学会第67回大会(場所: 岩手県盛岡市岩手県民情報交流センター) 研究発表要旨集

和文要旨

本研究では, 東京都と富山県の男女高校生811名を対象に「ひと月のお小遣いの額」, 「現在の満足度」, 「制服着装行動」について質問紙調査を行い, 制服が高校生の行動・生活に与える影響を明らかにした。

- 1) 「ひと月のお小遣いの額」について, 男子の平均額が富山(4,587円), 東京(5,822円)であった。女子の平均額は, 富山(4,173円), 東京(7,369円)であった。東京都の男子高校生のお小遣いの額は10年前の47%水準であり, 生徒の経済状況は厳しい状況にあると考える。
- 2) 「満足度」について, 「制服」に満足している高校生は, 富山の女子(10.7%), 東京の女子(17.7%), 富山の男子(18.6%), 東京の男子(17.4%)と低い。男子学生の制服満足度は東京と富山間で差が見られない。女子学生は富山の女子学生が東京の女子学生に比べて満足度が低いので, 対策が求められる。
- 3) 「高校生の制服着装行動」の構造を見ると, 男子高校生は、『制服の着崩し』『個性表現の願望』『制服への愛着』『制服着用時の外見』『制服の機能性』の5因子, 女子高校生は『制服の管理』因子が追加され, 6因子で構成された。

(2015年10月20日受付)

(2015年12月22日受理)